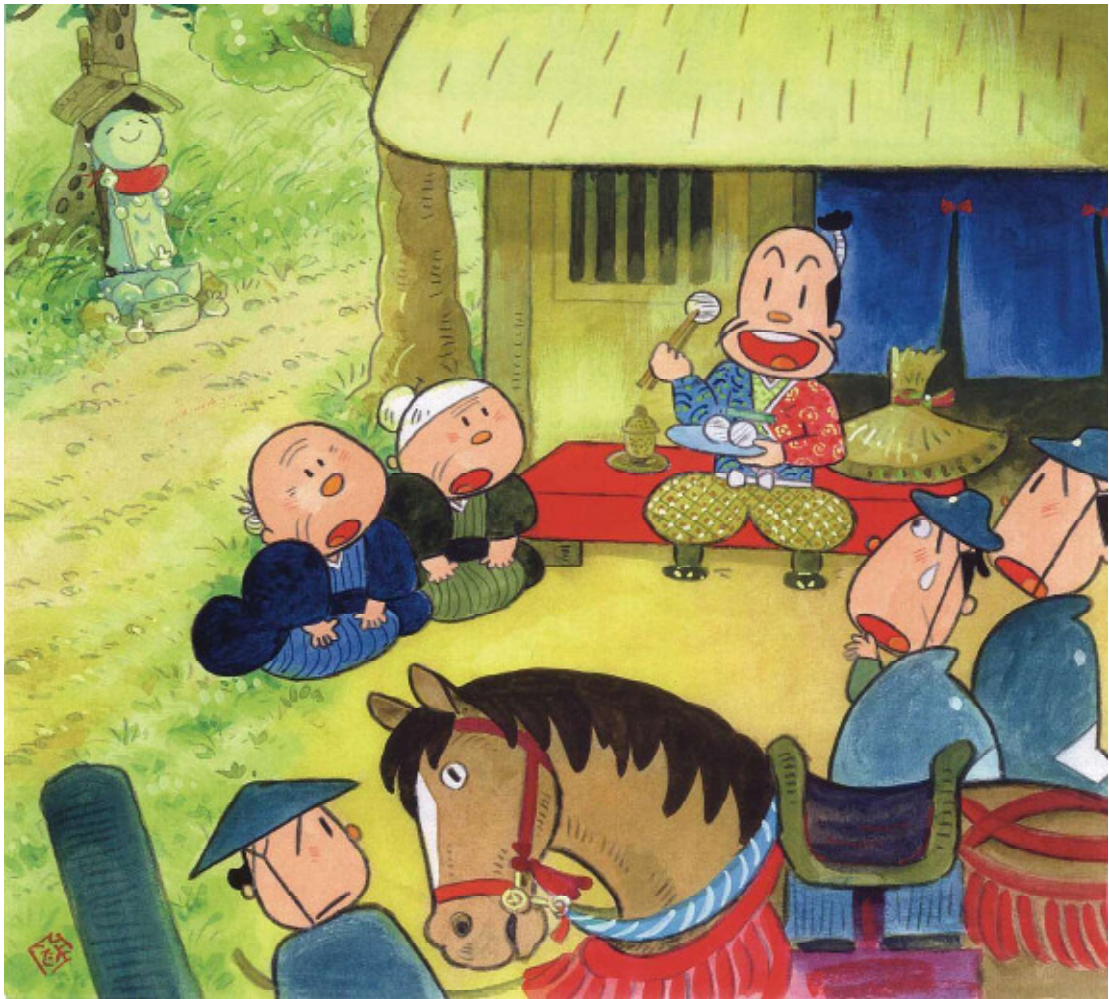


「広報しながわ」平成 19（2007）年6月 1 日号より転載
 （イラスト：池原昭治）

茶屋は、現在の朝日地蔵堂の前の、その昔「すず団子」という名の茶屋がありました。この茶屋は、目黒不動尊（龍泉寺）と碑文谷仁王尊（田融寺）への分かれ道のところ、「地蔵の辻」と呼ばれる交差点近くにあったので、江戸時代には多くの参拝客が立ち寄り、にぎわっていました。当時の茶屋のおもかげを残す資料として、店を営んでいた林家に「すずだんご」と書かれた徳利と盃が伝わっており、店名の由来を伝える昔ばなしも残っています。



小山 しながわ
茶屋
 品川

◆ **すず団子**



小山二丁目の朝日地蔵堂の前に、その昔「すず団子」という名の茶屋がありました。この茶屋は、目黒不動尊（龍泉寺）と碑文谷仁王尊（田融寺）への分かれ道のところ、「地蔵の辻」と呼ばれる交差点近くにあったので、江戸時代には多くの参拝客が立ち寄り、にぎわっていました。当時の茶屋のおもかげを残す資料として、店を営んでいた林家に「すずだんご」と書かれた徳利と盃が伝わっており、店名の由来を伝える昔ばなしも残っています。

ある殿様が狩りに出たときのことです。おなかがすいていたので、地蔵の辻にある茶屋に立ち寄り、店先の縁台で団子を食べることにしました。この茶屋では、団子はくしにささず、くずもちのようにお皿にもっていません。

おいしそうに団子をほおばった殿様、ふと見ると、団子に黒い「くもの巣」のようなすず（煤）がついているのに気がつきました。「こりやなんじゃ？」

殿様のことを聞いて、周りにいた家来たちは真っ青になりました。「これはえらいことになったぞ」と困りはて、返事もできずにいたところ、殿様が気をきかせてこういいました。「これはすずではない。すず団子じゃ。これは鈴団子（寿々団子）と命名せよ。」

昔は、火をたくのに家の中でわらなどを燃やしたので、天井にすずがたっさんついていたのでした。

こうして「すず団子」は茶屋の名物となり、店の屋号になるほど評判を呼んだということです。